

令和4年度第1回刈谷市総合教育会議 議事録

1 日 時

令和5年1月26日（木）午後1時30分～午後2時30分

2 場 所

刈谷市役所 502会議室

3 議 題

(1) 意見交換 テーマ「子どもたちの学びの現場から」

4 出席者

市 長	稲垣 武
教育委員会 教育長	金原 宏
教育委員会 委員（教育長職務代理者）	浅井 優
教育委員会 委員	石田 芳加
教育委員会 委員	鶴田 英孝
教育委員会 委員	小川 耕示

5 会議構成員以外の出席者及び事務局

教育部長	岡部 直樹
教育総務課 課長補佐兼施設係長	加藤 史彦
教育総務課 総務係長	近藤 亜由子
学校教育課長	加藤 祐介
企画財政部長	村口 文希
企画政策課長	高橋 盟
企画政策課 課長補佐兼政策推進係長	内野 康孝
企画政策課 経営管理係長	三浦 一将
主事（書記）	榊間 悠太

6 傍聴人

0名

1 市長あいさつ

皆様、改めましてこんにちは。今年度、第一回目の総合教育会議です。

コロナ禍ではありますが、教育の分野を含め、色々な制度が少しずつコロナ前の状態に戻ってきていると期待をしております。

教育の分野では、国も本来は5年をかけて進めていくという思いが強かった「GIGAスクール構想」が、各自治体においてコロナを機に一気に推進され、刈谷市においても、タブレットや電子黒板の導入を通して2年をかけて推進してきました。学校の先生方にとっては大変だったと思いますが、その効果もあり、刈谷市では、全国学力・学習状況調査においても目に見える効果が出てきているようです。

子どもたちが全体的にシフトアップし、その中から優秀な人間が出てくることで、刈谷市の教育は素晴らしいということを確認していただけたと思いますので、今後もそういった方向で進めていければと思います。

今日は、現場の先生方のご苦勞や成果をお話いただく中で、ご意見ご要望をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2 議 題

(1) 意見交換 テーマ「子どもたちの学びの現場から」

・「子どもたちの学びの現場から」について学校教育課長から資料1により説明

<以下各委員等意見要約>

浅井委員

ICT機器やデジタル教科書を導入していただいたことにより、授業の幅が広がり、深みも増したと思います。実際に学校訪問をさせていただいた際にも、子どもたちが前のめりになって授業に臨む姿を見ることができ、ご説明いただいた資料に記載されている効果を実感しております。

しかし、その一方で、学校訪問した際に見た一端だけを切り取って、その効果等を評価して良いものなのかと思うこともあります。学校訪問では、先生方が事前に準備していただいた綺麗で整った一番良い状況を見させていただいているので、その一端だけを見て、毎日がこういう状況なのかなと思うところもありますし、この効果を得るために、学校の関係者の方々や現場の先生方が、ご無理やご負担や我慢をされているのであれば、この効果がそのまま刈谷市の小・中学校の現状であると知ってもらうのはどうなのかと思うところもあります。先生方にそういったご不満やご負担や我慢がない上での効果であることを切に願っています。

一方で、最近、学校外活動だと言われる部活動の顧問を断る先生が増えてきたという声を聞いたことがありますし、土日の夜に仕事をされている先生を見ることもあります。生徒や保護者の方々から「先生にこんなことを言われた」という話を聞くと、余裕が無いのかなと思うこともあり、果たしてこの効果や私達が見させていただいた学校訪問の現場だけを切り取って、すごく良い状況だと言っていいのかわからないという感情もあります。

実際に、教育大綱に掲げた目指す姿に向けて、どういったことをすれば良いのかというこ

とを考えて実行するのが現場の先生ですので、その先生たちが余裕を持って、この目的を意識して自分たちで道筋を作って楽しんでワクワクしながらその変化を見ていくことが一番の目標に近づく近道なのかなと思っているので、そこに無理や負担や不満や我慢等々がなければいいなと思っています。

市長

確かにコロナになってからすぐに教育環境ソフトや電子黒板などが一気に導入されたので、ずっと慣れる人と慣れない人が出てくると思います。その中で、先生方にもストレスがたまる部分があるかもしれませんし、それが子どもたちに影響することもあるかもしれません。その辺はどうですか。

事務局

現場としては、導入当時は使うことが目標だったのが、今はより良く使うように多くの教員が使えております。しかし、やはり苦手な人は苦手なので、それを授業に必ず使いなさいということはしていません。投影ができると、印刷や書くことが必要なくなり負担軽減になっていますが、苦手な方にはストレスがかかっていることは否めません。

市長

私は朝日中学校のクニマスの授業に参加させていただきましたが、若い先生が、ご自分が田沢湖に行ったところをレポートしていて、すごい努力だなというふうに思いました。

浅井委員

日頃の業務の負担があつたり、余裕がないとなかなかプラスアルファのことができないので、楽しんで、先生がわくわくしてこういうことを子どもたちに提供したらどうなんだろうということを次から次へと先生の方から出せるような環境であればなと願うばかりです。

石田委員

学びの現場でお会いした方から聞いたことを取り上げてお話しさせていただきます。

教育委員という立場で学校の先生方、保護者の方の話を聞き、教育現場を見てきました。こうした経験をさせていただいたからこそ知ったことがたくさんあります。毎年の訪問で感じることは、率直に一言で言うと、先生方は頑張っています。そして、子どもたちはそれをしっかり見えています。

私は、どんな場においても、ユーモアや笑いがある場は心身を柔軟にする効果があると思っており、そういった場には良い間が生まれますし、意欲やアイデアが生まれます。学びの現場でも同様です。真面目な環境だけが良い雰囲気ということではないですし、学歴的な優秀だけを追う発言だけになっていないかと気をつけることもありました。

これまでに、学校にいる子どもたちから聞いた発言で印象的だったのは、失敗しづらいということでした。学校には常に成功を見据えた空気があつて、生徒自身の意見よりも先生が

望んでいそうな意見を優先して発表してしまうということで、これは成績が良い子どもに多かったです。先を読めると言えばそうなのかもしれませんが、私はその時危機感を覚えました。自分の意見を優先して伝えたとしても、先生が叱ることはないだろうということをそこにいる生徒たちに言うと、諦めているようにも感じました。保護者からの苦情や似た相談や意見が学校現場で無くならない一つの理由として、子どもたちがこのように感じていることを意見したり相談したり、そういう一つの場面の中に原因があるのかなとも思います。

先生方にも会って話を聞くと、限られた時間で授業を進めていく必要があるため、仕方ないところもあるし、気をつけなければいけないと分かっているけどどうしてもそうなってしまうという声があり、私としても「そうだよ」と言いたくなるような返答だったのですが、先ほど浅井委員の話にもありましたが、本当に色々な授業で工夫がされていますし、新しいものが導入されるなど、教育の現場も変わってきているのが実情なので、先生方に余裕が出てきたら、またこういうことも考えていけたらなと思っています。

では、今後、子どもたちの個が輝く意見や考えを本当の意味でどう引き出すのか。ぜひそれを刈谷の教育の課題にさせていただいて、自主的な意欲を持って未来を創造する子どもを育てていただきたい。

冒頭に述べましたように、先生方が頑張っていることは誰もが知っています。そして、それを子どもたちが見ている。教育のプロとして誇りを持っていただき、日々子どもたちに届けてくださっていることに感謝しております。

新しい時代の刈谷の教育の歩みを止めないためにも、もう少し違う切り口から、まずは大人が挑戦し、その結果をありのまま子どもたちに見せることはできるのではないのでしょうか。子どもたちがそれを見て心が揺さぶられて、不安を消して堂々と生きるということに変わってくるといいなと思います。

ここ3年はコロナに翻弄され、教育の世界でも、うまく進めない中、刈谷なりに本当によく工夫されたな、ご努力されたなと実感しております。時代の流れ、人の感覚価値観が大きく変わっております。ぜひ刈谷の教育に新たな挑戦と新しい感性の風が吹くことを期待しています。

市長

失敗を恐れることや先生の意向を優先することは分からなくもないです。社会に出てもやはりそういうところは当然あると思いますし、学校現場においてもそうですよね。お子さんが自分の意見を曲げてまで全体の流れに沿って話をしようとするところも少し悲しい気もしますが、教育長いかがですか。

教育長

難しいのですが、本音を語るような授業というと、道徳がありますね。

事務局

教員はどうしても45分の枠があるので、その時間内に納めたくなるのだと思います。子

どもたちもそれがよく分かるので良い意見を言いますが、ベテランの教員の場合は、子どもの意見で展開を切り替えてくれます。

石田委員

私はそういう教育になっていくといいなと思っています。

保護者さんの本音を聞く中でも、結局は根底にはそうなんだなということを、この6年こういう仕事をさせていただいたので分かりますし、先生の方がお忙しいと分かっているながらも、子どものそういうところを引き出してもらえたらありがたいなという思いもありながらというところが分かりますので、私はこういう仕事をしてるので、ここにいさせてもらっていて、貴重な機会だからこそ貴重な意見をとると思っていて、今回も受けさせていただきました。

教育長

指導案を作ってその通りにやらなければならないということで先生たちが進めると、こちらとしても先が読めてしまう。

一方で、ベテランの先生の場合、1時間の授業で発問を二つくらい考えていて、最初に大きい発問してあとは30分くらい自由に発言してもらい、そこで本音が出せるという感じでした。ベテランになるとそういう自由な授業を行えるのですが、どうしても学校訪問の場合は先生たちが失敗しないようにとじてしまいます。

石田委員

私はそれが見たいです。

教育長

最初に子どもたちに自由に発言させた方が多くの子どもが発言して子どもは安心して授業に臨めますよね。最初から質問が限定されてしまうと、数人の子が授業を進めることになってしまうので、それは本当はあまり良くないとは思いますが、若い先生の場合、失敗してはいけない気持ちが強いのだと思います。

石田委員

子どもの長い人生について考えた時に、社会に出てから何が大きな財産になるかということ、そういうことが本当に大きいですし、授業の中にもアイスブレイクを取り入れて、ほぐしてから授業に臨むと良いかと思っています。

学校に行きにくい子どもへのきっかけ作りや、隣の子が行っているからではなく、自分の意欲でちゃんと学校に行こうと自主的にそう思うことができる子がますます増えると良いなと思います。

浅井委員がおっしゃられたように、先生たちにも楽しんでもらいたいと思います。何でも発言して良いこと、そしてそれを受け入れる姿勢というものを教育として取り入れていくことを先生方には行っていつてもらえたらなと思います。

教育長

ある市は教育についてかなり深く行っておりまして、クラスの子どもの3分の2が発言しなければ授業分析はしないとのことで、いかに多くの子どもたちに発言をさせるかという研究をされており、先生たちがどのように子どもの考えを引き出すかについて考えていくものですから、また挑戦してもらおうような機会を作っていきたいと思っています。

鶴田委員

今回、子どもたちの学びの現場からということで、先ほどから学校訪問についてのご意見がかなりあると思いますが、浅井委員から一面を切り取った形ではないかということや、先生方がかなり事前準備をされているという話がありましたが、指導案自体は、先生方によって常日頃から非常に検討されております。授業を組み立てた上で実際の授業が生まれていると思いますので、私としては、1年に1度ではありますが、学校訪問で現場を見せていただけるのは本当にありがたい機会だと思っています。今回はこういうテーマですので、私自身が学校訪問にお邪魔したときの私見を述べさせていただきたいと思っています。

学校は、まだ新型コロナウイルスの感染拡大の影響を非常に強く受けております。実際に学校にお邪魔させてもらおうと、徐々にではあるのですが、ウィズコロナ、場合によってはアフターコロナを見据えたような活動、新たな学びを模索するという姿を見る機会が非常に今回多かったなというふうに考えております。

実際に授業を見て、まず印象に残ったのが、コミュニケーションが復活してきたことです。ペアトークやグループトーク、さらには教室全体で机を向かい合わせにして話し合う姿を多くの学校で見ることができ、教室の雰囲気が本当に変わったなという印象を持ちました。

また、コロナ禍において非常に有効に活用されたタブレット、ICTについてですが、当初はとにかく使わなければいけないという雰囲気があり、全てのクラスで使われていたのですが、今回は、使うべきところでの確に使用している印象を受けました。例えば、音楽の授業において、生徒がタブレットでそれぞれの部分作曲をした後に、みんなで音楽を繋げて一つのセッションにするという活動や、タブレットを用いて前回の授業の振り返りを映像で行うなど、非常に特徴を活かした活用がなされているなという印象です。

さらに、今回導入されたプロジェクターについてですが、タブレットがどちらかという個別の学びを中心に行っているのに対し、プロジェクターは、みんなで協力して課題解決に取り組む学びに使われていましたし、動画を映す方が多く、雰囲気を柔らかくして議論を活発にするような仕掛けになっている様子を見て、導入していただいていたと思います。ICTも先進的に導入していただいておりますが、私が各学校の授業を見る中で、実物に触れることをかなり意識した授業も積極的に行われている印象を受けました。本物の笹を使って工作をしたり、紙製の竹とんぼを作り、友達と議論しながら工夫する授業など、こういった授業を先生方が意識して行っていることは非常にありがたいなと思っています。また、税理士の先生に来ていただいて、税の勉強をする授業が行われるなど、コロナ禍でなかなか見ることができなかった外とのコミュニケーションも徐々に復活してきたのかなという印象を持ちました。また、子どもたちの健康に気を遣っていただいたようにコロナで

なかなか出歩けないことを意識されていると思うのですが、外遊びを推奨する遊具遊び検定などが取り組まれていて、ありがたい活動だなと思っております。

学習自体については、様々な学校で説明がありましたが、最近探究的な学びに非常に真剣に取り組んでいるようで、例えば、授業の冒頭に動画を見せて、それに対して子どもたちが自分の持っている知識で議論している姿が印象的でしたし、それを検証するための実験方法自体も子どもが自分で考えることも先生が導いているので、自分で答えを探って深い理解をしていく姿勢が徐々に定着してきている印象を持ちました。

コロナ以外については、例年行っていることではありますが、先生方が一貫して子ども一人一人に寄り添うことを意識していると感じました。1日1回クラスの全ての子どもと担任の先生が話したり、先生方が昇降口で子どもを迎え入れたり、個人面談をやられていたり、非常にきめ細かくフォローしていただいていると思います。また、校則や女子の制服、靴下、靴の色、髪型などを生徒に考えさせる取組や、1年後に自分がどうなっていたいかという姿を子どもたちに描いてもらい、行事ごとにその実現のための個別の目標を掲げ、その足跡を表示するというような取組もされており、子どもたちの自主性や主体性を育む活動も非常に良かったです。

新型コロナウイルスの感染拡大により、子どもたちにとっても学校にとっても非常に厳しい環境に置かれたと思うのですが、実際の学びの現場ではこの状況をきっかけにして、ICTの活用や、子どもたちの自主性を育てる活動を新たな学びの姿として追求していただき、新しい学校生活も作り上げつつあるのではないかと感じました。

市長

コロナが収束に向かい少しずつ良くなっていく中で、学校でも、コロナに押しつぶされるのではなく、子どもたちに人と人との繋がりを伝えるために先生方が工夫されている様子が見えたということですね。

小川委員

学校訪問をしている中で、昨年度はICTとしてタブレットを普及させていただき、去年はそれぞれの先生がその活用について考えられ、今年は電子黒板が導入され、秋に伺った際にはそれを活用されておりまして、段々とステージが上がって来ており、ご投資いただいたものに対して、現場はその活用を進めていると感じました。

秋頃にその電子黒板を見せていた際に、体育館の空調設備が稼働した状況もを見せていただき、コンプレッサーのボックスと同時に発電機機能を使って電気を供給できるという話を伺いましたが、ICT機器などを使っていくと電気が必要になりますし、これだけ個人のスマホなどの情報機器を活用するとなると、非常時のインフラや通信についてはやっぱり取り組む必要があるのではないかと感じました。そういったところに対して、どのように投資されていくのが楽しみです。

市長

先日、小垣江小学校で利用いただき、好評でしたということで、本当に寒い中で体育館は床がコンクリートですので、そういった形で使っていただけて良かったかなと思いますし、今年の夏も活用してもらえればと思います。また、避難所としても活用していただけたらと思っております。

教育長

私からは四点ほどお話をさせていただきます。

まず一点目が、今一番手応えを感じていることになりませんが、子どもたちが主体的に活動するようになってきたということです。一番手応えを感じる一つのきっかけとなったことが、平成24年当時の太田教育長先生から、学校現場に子どもたちが自らいじめ防止の活動をするのができないかという投げかけがあって始まった生徒会を主体としたいじめ防止活動です。ポスター作製や笑顔のプロジェクトの実施など、子どもたちが生徒会が変わるたびに様々な企画を考えてもう10年続いています。生徒会を中心に子どもたちが自分たちでやるんだという雰囲気が出てきて良かったなと思っています。6中学が会場を変えながらその成果を発表しあう生徒会サミットが年に2回行われており、合計で20回程度行われています。昨年の12月には依佐美中学校で開催されましたが、そこに、双葉小学校の6年生と小垣江東小学校の6年生とその先生も参加をして、中学生と一緒にいじめ防止について話し合いました。今回は、いじめ防止についてだけでなく、明るい学校作りもテーマとされました。いじめだけでなく、明るくて過ごしやすい学校作りをしていこうというテーマで小・中学生が集まって話し合いをしている良い姿だなと思っています。これが他の中学校や小学校にも広がっていくので、このような活動が非常に良いことだと思っております。このような活動がいじめ防止だけでなく、色々なことに広がってきており、徐々に子どもたちが中心となった活動ができるようになってきたなと思っております。その一環として、校則の見直しプロジェクトやその見直しのためのアンケートを取ろうとする中学校もあります。子どもたちが自ら校則について考え、それをもとに全校討論会をやろうとする中学校もありますので、こうした広がりには私は今一番手応えを感じています。ある中学校の75周年の記念式典は生徒が行っていました。見事でした。本当に子どもたちが大事にされているなと思いますし、こういった活動に対して子どもたちが予想以上に頑張ってくれたと感じる先生が増えると、もっと学校は変わってくるのではないかと期待をしながら新年度また頑張っていきたいと思っております。

二点目はICTの関係ですが、皆さんがおっしゃられた通り、授業がとても変わり、分かりやすくなりました。また、全員の子が授業に参加できるようになりました。全員の子がそれぞれタブレットで作ったものを、プロジェクターに映し出すことで全員の意見を見ることができるようになってきましたので助かりますし、手元で細かい作業を行う時も、タブレットとプロジェクターを使うことで、全体に見せることができます。また、体育の授業では、自分の動作を映して確認をし、次の動きをするというような使い方もできるようになりましたが、課題としては、筋道立てて論理立てて、自分なりにまとめて発表するような力を

これからつけていくといいかなと思います。無理をせずに少しずつプレゼンテーションの力もつけていくのが大事かなと思っています。

三点目は、地域との連携です。刈谷の学校は、本当に色々な地域のボランティアの方に助けていただいております。今年もミシンの実習やプール清掃、プールの指導の補助や校外学習の補助、最近では書き初め展など子どもの作品を飾る仕事を行っていただき、すごく助かりました。ボランティアの方から、「先生たち大変だったね」といった声もかけていただいて良かったかなと思っていますが、このようにこれからも地域の方々に協力していただき、また、子どもたちも地域の方々に協力し、一緒になってやっていけるといいかなと思っています。

最後の四点目の課題ですが、やはり不登校の数でございます。今年度の中学校の不登校数は昨年より減っておりますが、小学校に関しては少し増えていますので、その対策をまたこれから考えていきます。色々な機関との連携もありますし、担任の先生と相談員の方との連携もありますけれども、中学校では、ほっとルームが学校と家庭との間の一つの居場所となっているということが非常に良く、そこを拠点にして教室に行ったり、また戻ってくることもできるということもできて良かったかなと思っています。中学生の不登校の子どもたちに話を聞くと、やはり勉強や進路が心配だという声もあるので、ここ2年ほど、不登校、長期欠席者の子どもたちを対象にした進路説明会を総合文化センターで開催しております。高校の先生に来ていただき、進路について早めに説明をしていただいておりますので、非常に保護者の方に好評でありまして、早めに進路の不安などを取り除くことは良いことだなと思っています。不登校対策と同時に、すこやか教室やほっとルームではタブレットで勉強ができます。タブレットを持参し、すこやか教室で学習サイトを使って勉強したり、また、教室の授業をそこで見る体制も整えていながら、学習の保障をしていきたいと考えております。何とか1日でも欠席数を少なくしたいと思っています。以上でございます。

市長

先日の教育懇談会でも人口の話をさせていただき、子どもの数が減っているという話をさせていただきました。令和5年度の小学校に入学する子どもの数を調べさせていただきましたところ、4月に1,376人が入学される予定でありまして、令和4年が1,438人、令和3年が1,475人、令和2年が少し少なく1,358人、令和元年は1,424人、平成30年が1,472人ということでございますので、やはり減少傾向にあるのかなと思っています。

先日の成人式では、市内に住所を有する20歳の人ではありますが、1,865人でしたが、少しずつ減ってくる中で、住吉地区や亀城地区は非常に増加しており、お子さんが多くいらっしゃるということですのでけれども、小学校に入学する際に、入学後にその場所を変えずにお子さんを育てたいという思いの保護者の方が多いようで、これも長年に渡ってそうなのですが、小学校入学前に自分の家を建てようとしたとき、刈谷市の土地の値段が高いので、他自治体へ出ていくという傾向があり、そこで人数がぐっと減る傾向にあります。この傾向は昔からあり、元々生まれる子どもの人数が1,700人ほどであったのが、最近では1,300人台ほどになってきています。そのため、学級数や一クラスの数も減ってきているの

で、教育環境として先生方が寄り添う対象になる人数が減っており、そういう意味ではやりやすくなっているとは言えるかもしれませんが、求められるものが変わってきておりますし、部活の関係もこれで少しずつまた変わっていく中で、先生方の本当のあり方が非常に難しくなると思っております。

ただ、先ほどお話があったように、子どもたちが自由な発想で自由な意見を持てるということが大事ですし、それを認め、寄り添うことができるキャパシティの幅広さがある環境、子どもたちの可能性を大きく広げていただけるような教育環境であるといいなと思います。先ほど話がありました学力調査についても、どこでこれから家を建てるか検討している方々に、子どもたちの教育環境がいいという評判が生まれてくると、その後もまちとして選ばれる大きな要素になるのではないかと思っております。

子育て支援について、一元的な子育て支援ということで、東京都では月5,000円、年間6万円を年度当初に支給するという話や、一方で、すべての高校ではないと思いますが、高校で塾の先生の授業を受けさせるような話も出ているようです。要するにおそらく東京都はこれから子育てをするのにいい環境である示したいという意図があるのではないかと思っています。

都市間競争とでも言いましょうか、東京都においても、元々多くの方が地方から働きに来ていたのが、地方自体の人が減っているため、これから人を集めるにはかなり苦勞するのではないのでしょうか。こういった取組は新たな魅力の発信をしていくという試みなのかなと思っています。刈谷市も同様で、都市間競争ということで、若い人たちにいきたい住んでみたいと思ってもらえるようなまちになっていき、その中で教育の環境は非常に重要なところで、皆様方に見ていただいて、教育の環境を整えていけたらなと思います。

3 その他

令和5年度総合教育会議 1月の定例教育委員会に合わせて1回開催予定